

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200335		
法人名	有限会社 てらだ苑		
事業所名	グループホーム さん愛		
所在地	〒822-1406 福岡県田川郡香春町香春1660番地1 TEL 0947-45-1303		
自己評価作成日	令和05年10月06日	評価結果確定日	令和05年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年12月05日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を「より愛、ふれ愛、たすけ愛」として、日頃よりご家族様と入居者様とが、ともに過ごせる機会を多く持って頂けるよう、さん愛新聞や行事案内を毎月お送りし、ホームページ等においても、ご家族様等が当苑を知ることが出来るよう、職員全体が日々精進し心地よく安らぎを感じていただけるような雰囲気・環境づくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「さん愛」は、地域密着型事業所として2005年3月に開設した定員18名のグループホームである。住宅型有料老人ホーム、デイサービス、訪問看護ステーションを併設し、各事業所が連携して利用者の活気ある日々の暮らしや安心に繋げている。看護師を1名配置し、提携医による月2回の往診と訪問看護ステーションとの連携で安心の医療体制が整い、看取りにも取り組んでいる。ベテラン管理者を中心に、幅広い年齢層の職員が、チーム介護に取り組み、互いを思いやり助け合っている。新型コロナ「5類」移行に伴い、地域との交流や外出支援をコロナ状況を判断しながら再開を検討している。敷地内の畑で野菜を育て、旬の食材を使って職員が交代で作る美味しい料理を利用者が完食し、健康増員に繋げている。外部から講師を招いて行う週2回の音楽レクリエーションや足湯でリラックスタイム等で利用者の明るい笑顔を取り戻し、見守る家族からは喜びに包まれ、利用者や家族と深い信頼関係が築かれている、グループホーム「さん愛」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示しており、毎月の定例会議で職員全員で唱和している。その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	ホームが目指す介護理念を掲示し、職員会議時に唱和して職員間で理念の意義や目的を理解し、利用者が家庭的な環境の中で、安心と尊厳のある生活の支援に取り組んでいる。また、地域との交流を通して、利用者が自分らしく生き生きと過ごせるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で何年かは行えていなかったが今年から香春町の秋祭りも開催され参加ができた。職場体験の受け入れを行い中学生との交流もでき運営推進会議も再開できている。	新型コロナ「5類」移行に伴い、週2回行われる講師を招いての音楽レクリエーションや地域の行事、活動への参加、小学校との交流、中学校の職場体験、ボランティアの受け入れ等、コロナ状況を判断しながら実施し、利用者の大きな楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者のいる家族からの相談事等は、いつでも対応できるように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、介護保険の変更事項やグループホーム内の取り組み、ヒヤリハットや事故事例等のご報告、地域との繋がりが持てる意見交換を行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、利用者状況、ヒヤリハット、課題等を報告し、参加委員の意見や質問情報提供等を受けて話し合い、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	参加委員が固定化しているため、コロナ収束後には委員の増員を図り、家族、元家族、地域、行政と協力して、ホーム運営や地域の課題解決に向けて取り組める開かれた会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議に地域の方々にも参加していただき、意見交換を行っている。	管理者は、介護の疑問点や困難事例があれば、行政や地域包括支援センターに相談し、情報交換しながら連携を図っている。ホームの空き状況や事故等の報告を行政窓口で電話やメールで行い、アドバイスや情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修があった際は、職員が参加している。また、職員間でも定期的に研修を行っている。	施設長、所長、2名の管理者を中心に身体拘束廃止委員会として話し合いを行い、その内容を基に職員を対象に身体拘束の研修を実施し、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、身体拘束をしない、させないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束に関する研修には職員が参加しており、全職員に情報共有。理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの影響で関係者との話し合いは出来ていないが、施設で研修を行い、全職員が理解し活用できるように努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。現在、制度を活用している利用者はいないが、利用者や家族から相談があれば、内容や申請手続きについて説明し、関係機関を紹介出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に、個々にしっかり説明を行い、同意を得ている。また、改定時には、事前に説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はコロナウイルスの影響により再開できていないが意見箱を設置しており、意見箱にもご家族の意見をいただいている。	コロナ感染対策以前は、母の日と敬老会を兼ねて年2回家族会を開催していたが、新型コロナ「5類」移行に伴い、再開を検討している。コロナ状況を判断しながら、面会が可能となり、月1回の利用料の支払い時等の機会にも家族とのコミュニケーションに努め、その都度意見や要望を聴き取り、利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、職員からの意見等を聞き入れる環境づくりに努めており、意見を反映させている。	職員会議を月1回17時半から開催し、ほとんどの職員が参加して活発な意見交換が行われている。話し易い雰囲気の中で、職員の意見や要望、気になる事等について話し合い、利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、業務改善や利用者の介護サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力を十分に認めており、向上心を持って働けるように努めている。また、研修の案内が来た際には参加の声掛けを行い、さらなる向上心を持って働けるように支援している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等は、一切気にすることなく、本人の思いや人柄を尊重し採用している。また、職員の性別・年齢等、その人の能力に対し、差別することなく対応している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていない。産休育休後も職場復帰できる体制を整え、互いが助け合う、気持ちの優しい職員が多いので、職員は定着している。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担して、職員が生き生きと楽しく働くことのできる職場環境作りに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育についての研修等に参加し、理解に努めている。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮して、言葉遣いや対応に注意した介護サービスに取り組んでいる。また、理念の中に、「安心と尊厳のある生活」と明記し、職員は、常に理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技能向上研修等に参加し能力や知識の向上に努めている。毎月、内部研修を行い意見交換等を行うことによって理解を深めるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加したり、事業者協議会などでの意見交換することによってサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、面談や見学を行っており、不安を十分に解消して頂いてから入居していただくように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談を行い、不安な点や質問については、しっかりと話しさせて頂いている。また入居後には意見箱等を使い、意見を言いやすい環境づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談を行った上で、不安や悩み等を第一に考え、プランを作成し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事、できない事を見極め、自分でできる事はして頂きながら、共同生活が送れるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに家族と連絡を取り、いつでも会いに来やすい環境づくりに努めている。また、面会時間にて利用者様の状況をお伝えしたり要望を聞いたりし、一緒に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みのある物や、家族の写真を置いたりしている。また、誰でも面会できるような雰囲気づくりに努めている。	コロナ対策以前は、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり話が出来た環境を整え、馴染みの方々との交流を楽しむことができていた。新型コロナ「5類」移行に伴い、家族の面会をコロナ状況を判断しながら再開し、友人からの電話の取り次ぎも行い、会話を通して懐かしい時間を過ごせるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話を広げたり、レクリエーション等の行事を用いて一人一人が孤立せず、支え合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と定期的に連絡を取り、いつでも相談しやすい関係構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関りや会話の中で発せられる言葉や言動から、意向を把握するように努め、また意思表示ができない方に関しては、家族との話し合いを通じて、本人本位の支援ができるように努めている。	職員は日常会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有し介護サービスに反映させている。意向表出が困難な場合には、職員が利用者寄り添い、表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所初期に本人や家族からこれまでの生活環境や馴染みの人、場所等を聞き、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方や、心身の状態等は、詳しく記録している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族等の意見を反映し、職員間でモニタリングを行い、無理のない計画作成に努めている。	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聞き取り、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でグループラインを用いて情報共有をしている。また、月に一度の定例会議にて、意見交換や計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合った支援が行えるよう、その都度全職員で話し合い、柔軟なサービスが行えるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との関りを大切にし、地域の活動への参加を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	二週間に一度往診を行っており、主治医と情報共有をしっかりと行い、適切な医療を受けられるよう努めている。また他科受診についても、家族と協力し適切な医療を受けられるよう努めている。	入居時に利用者や家族と話し合い、主治医を決定している。協力医療機関医師による月2回の定期往診と同法人内訪問看護ステーション、ホーム看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等があった場合には、すぐに連絡を取れる体制を構築している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関との情報共有をしっかりと行い、早期退院ができるよう、こまめに医療機関との連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け、本人や家族と定期的に話し合い、また主治医を含めた話し合いもできるように場を設けている。	契約時に重度化や終末期の方針について、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、訪問看護ステーションとも連携しながら、家族の希望があれば看取り支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習・避難訓練等を定期的に行い、月に一度の会議でも急変時の対応等を話し合い、全職員が対応できるように取り組んでいる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回昼夜を想定した避難訓練を実施し、消化手順等を指導を実施している。	コロナ対策以前は、消防署の指導を得て年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施していた。新型コロナ「5類」移行に伴い、避難訓練を定期的に行い、非常口や避難経路、避難場所、を確保し、利用者全員が安全に避難場所で待機できる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った話し方や対応ができるよう研修を行っている。	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組み、利用者が穏やかに過ごせる環境を整えている。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いや希望を探り、自己決定できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人一人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に訪問していただき、身だしなみを整えている。また服装は本人と職員で一緒に選び支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ季節感を味わって頂いている。また誕生日には、ケーキ等を提供している。食事の準備等はその日の状態に応じて一緒に行っている。	ホームの畑で取れた新鮮な野菜を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供し、一緒に食べる家庭的な食事の時間である。誕生日にはケーキを作り、天気の良い日にはお弁当を作って外で食べる等、いつもと違う雰囲気での食事も楽しんでいる。芋づるの皮むきや豆の筋取り等、利用者と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量は、しっかりとチェックし記録している。また摂取が困難な方に関しては、補助食品等の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。週に一度訪問歯科に来ていただき、口腔ケアをして頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせたトイレ誘導を全職員が把握し行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行い、重度化した利用者も職員2人介助でトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導を行い、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、便秘予防に努めている。また、看護師や主治医との連携により、便秘時の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせた入浴が行えるよう、環境づくりに努めている。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して週2回を基本としている。湯船にゆっくり浸かってもらい、入浴の時間は利用者と職員がゆっくり話が出来る大切な時間と捉え、本音の話を聴き取っている。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、職員が交代で声掛けし無理強いのない入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や意思に応じ、自由に休憩して頂けるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明等は、個々の情報と一緒に記録しており、その日の服薬チェックも記録している。また薬の変更があった場合には、グループラインにて情報共有し、全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意な事を把握し、レクリエーション等で発揮できるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、外出は控えていたが、コロナウイルスが落ち着いてきているため、花見等季節に応じた外出を再開する予定としている。	コロナ対策以前は、園内で盆踊りを行ったり紅葉見学、ドライブに行く等、気分転換を図っていた。敷地内の畑の手入れや収穫、園庭の散歩、外にテーブルを出して食べる食事等、少しでも外気に触れて楽しめるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望に応じて対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった場合には、家族に相談の元対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔保持に努めており、また展示物を用いて季節感を味わって頂いている。	ホームの敷地に畑や足湯があり、利用者が野菜を育て収穫したり足湯に入り、リラクセスできている。毎月、季節感のある壁画作りに取り組み、季節の飾りつけにより、温かな雰囲気共用空間となっている。掃除、換気を小まめに行い、清潔な環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を把握し、共有空間の座席の配慮等を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思いや希望を尊重し、家族の写真を飾る等、居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者が長年大切に使用していた馴染みの家具や寝具、仏壇や家族の写真、身の回りの物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように注意して、利用者が安心して穏やかに生活出来るように配慮している。室内は清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできる事はして頂き、できない事は一緒にしたり、声掛けを行うよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示しており、毎月の定例会議で職員全員で唱和している。その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	ホームが目指す介護理念を掲示し、職員会議時に唱和して職員間で理念の意義や目的を理解し、利用者が家庭的な環境の中で、安心と尊厳のある生活の支援に取り組んでいる。また、地域との交流を通して、利用者が自分らしく生き生きと過ごせるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で何年かは行えていなかったが今年から香春町の秋祭りも開催され参加ができた。職場体験の受け入れを行い中学生との交流もでき運営推進会議も再開できている。	新型コロナ「5類」移行に伴い、週2回行われる講師を招いての音楽レクリエーションや地域の行事、活動への参加、小学校との交流、中学校の職場体験、ボランティアの受け入れ等、コロナ状況を判断しながら実施し、利用者の大きな楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者のいる家族からの相談事等は、いつでも対応できるように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、介護保険の変更事項やグループホーム内の取り組み、ヒヤリハットや事故事例等のご報告、地域との繋がりが持てる意見交換を行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、利用者状況、ヒヤリハット、課題等を報告し、参加委員の意見や質問情報提供等を受けて話し合い、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	参加委員が固定化しているため、コロナ収束後には委員の増員を図り、家族、元家族、地域、行政と協力して、ホーム運営や地域の課題解決に向けて取り組める開かれた会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議に地域の方々にも参加していただき、意見交換を行っている。	管理者は、介護の疑問点や困難事例があれば、行政や地域包括支援センターに相談し、情報交換しながら連携を図っている。ホームの空き状況や事故等の報告を行政窓口で電話やメールで行い、アドバイスや情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修があった際は、職員が参加している。また、職員間でも定期的に研修を行っている。	施設長、所長、2名の管理者を中心に身体拘束廃止委員会として話し合いを行い、その内容を基に職員を対象に身体拘束の研修を実施し、具体的な禁止行為の事例を挙げて検証し、身体拘束をしない、させないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束に関する研修には職員が参加しており、全職員に情報共有。理解を深め、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの影響で関係者との話し合いは出来ていないが、施設で研修を行い、全職員が理解し活用できるように努めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、契約時に利用者や家族に説明している。現在、制度を活用している利用者はいないが、利用者や家族から相談があれば、内容や申請手続きについて説明し、関係機関を紹介出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に、個々にしっかり説明を行い、同意を得ている。また、改定時には、事前に説明し、同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はコロナウイルスの影響により再開できていないが意見箱を設置しており、意見箱にもご家族の意見をいただいている。	コロナ感染対策以前は、母の日と敬老会を兼ねて年2回家族会を開催していたが、新型コロナ「5類」移行に伴い、再開を検討している。コロナ状況を判断しながら、面会が可能となり、月1回の利用料の支払い時等の機会にも家族とのコミュニケーションに努め、その都度意見や要望を聴き取り、利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、職員からの意見等を聞き入れる環境づくりに努めており、意見を反映させている。	職員会議を月1回17時半から開催し、ほとんどの職員が参加して活発な意見交換が行われている。話し易い雰囲気の中で、職員の意見や要望、気になる事等について話し合い、利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、業務改善や利用者の介護サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力を十分に認めており、向上心を持って働けるように努めている。また、研修の案内が来た際には参加の声掛けを行い、さらなる向上心を持って働けるように支援している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等は、一切気にすることなく、本人の思いや人柄を尊重し採用している。また、職員の性別・年齢等、その人の能力に対し、差別することなく対応している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていない。産休育休後も職場復帰できる体制を整え、互いが助け合う、気持ちの優しい職員が多いので、職員は定着している。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担して、職員が生き生きと楽しく働くことのできる職場環境作りに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育についての研修等に参加し、理解に努めている。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮して、言葉遣いや対応に注意した介護サービスに取り組んでいる。また、理念の中に、「安心と尊厳のある生活」と明記し、職員は、常に理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技能向上研修等に参加し能力や知識の向上に努めている。毎月、内部研修を行い意見交換等を行うことによって理解を深めるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加したり、事業者協議会などでの意見交換することによってサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、面談や見学を行っており、不安を十分に解消して頂いてから入居していただくように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談を行い、不安な点や質問については、しっかりと話しさせて頂いている。また入居後には意見箱等を使い、意見を言いやすい環境づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談を行った上で、不安や悩み等を第一に考え、プランを作成し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事、できない事を見極め、自分でできる事はして頂きながら、共同生活が送れるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに家族と連絡を取り、いつでも会いに来やすい環境づくりに努めている。また、面会時間にて利用者様の状況をお伝えしたり要望を聞いたりし、一緒に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みのある物や、家族の写真を置いたりしている。また、誰でも面会できるような雰囲気づくりに努めている。	コロナ対策以前は、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり話が出来る環境を整え、馴染みの方々との交流を楽しむことができていた。新型コロナ「5類」移行に伴い、家族の面会をコロナ状況を判断しながら再開し、友人からの電話の取り次ぎも行い、会話を通して懐かしい時間を過ごせるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話を広げたり、レクリエーション等の行事を用いて一人一人が孤立せず、支え合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と定期的に連絡を取り、いつでも相談しやすい関係構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関りや会話の中で発せられる言葉や言動から、意向を把握するように努め、また意思表示ができない方に関しては、家族との話し合いを通じて、本人本位の支援ができるように努めている。	職員は日常会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で共有し介護サービスに反映させている。意向表出が困難な場合には、職員が利用者寄り添い、表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所初期に本人や家族からこれまでの生活環境や馴染みの人、場所等を聞き、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方や、心身の状態等は、詳しく記録している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族等の意見を反映し、職員間でモニタリングを行い、無理のない計画作成に努めている。	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聞き取り、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でグループラインを用いて情報共有をしている。また、月に一度の定例会議にて、意見交換や計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合った支援が行えるよう、その都度全職員で話し合い、柔軟なサービスが行えるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との関りを大切にし、地域の活動への参加を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	二週間に一度往診を行っており、主治医と情報共有をしっかりと行い、適切な医療を受けられるよう努めている。また他科受診についても、家族と協力し適切な医療を受けられるよう努めている。	入居時に利用者や家族と話し合い、主治医を決定している。協力医療機関医師による月2回の定期往診と同法人内訪問看護ステーション、ホーム看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等があった場合には、すぐに連絡を取れる体制を構築している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関との情報共有をしっかりと行い、早期退院ができるよう、こまめに医療機関との連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け、本人や家族と定期的に話し合い、また主治医を含めた話し合いもできるように場を設けている。	契約時に重度化や終末期の方針について、利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、訪問看護ステーションとも連携しながら、家族の希望があれば看取り支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習・避難訓練等を定期的に行い、月に一度の会議でも急変時の対応等を話し合い、全職員が対応できるように取り組んでいる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回昼夜を想定した避難訓練を実施し、消化手順等を指導を実施している。	コロナ対策以前は、消防署の指導を得て年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施していた。新型コロナ「5類」移行に伴い、避難訓練を定期的に行い、非常口や避難経路、避難場所、を確保し、利用者全員が安全に避難場所で待機できる体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った話し方や対応ができるよう研修を行っている。	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組み、利用者が穏やかに過ごせる環境を整えている。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いや希望を探り、自己決定できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人一人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に訪問していただき、身だしなみを整えている。また服装は本人と職員で一緒に選び支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ季節感を味わって頂いている。また誕生日には、ケーキ等を提供している。食事の準備等はその日の状態に応じて一緒に行っている。	ホームの畑で取れた新鮮な野菜を使って職員が交代で作る美味しい料理を提供し、一緒に食べる家庭的な食事の時間である。誕生日にはケーキを作り、天気の良い日にはお弁当を作って外で食べる等、いつもと違う雰囲気での食事も楽しんでいる。芋づるの皮むきや豆の筋取り等、利用者と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量は、しっかりとチェックし記録している。また摂取が困難な方に関しては、補助食品等の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。週に一度訪問歯科に来ていただき、口腔ケアをして頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせたトイレ誘導を全職員が把握し行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行い、重度化した利用者も職員2人介助でトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導を行い、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、便秘予防に努めている。また、看護師や主治医との連携により、便秘時の対応を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせた入浴が行えるよう、環境づくりに努めている。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して週2回を基本としている。湯船にゆっくり浸かってもらい、入浴の時間は利用者と職員がゆっくり話ができる大切な時間と捉え、本音の話を聴き取っている。入浴を拒否する利用者には、時間をずらしたり、職員が交代で声掛けし無理強いのない入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や意思に応じ、自由に休憩して頂けるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明等は、個々の情報と一緒に記録しており、その日の服薬チェックも記録している。また薬の変更があった場合には、グループラインにて情報共有し、全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意な事を把握し、レクリエーション等で発揮できるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により、外出は控えていたが、コロナウイルスが落ち着いてきているため、花見等季節に応じた外出を再開する予定としている。	コロナ対策以前は、園内で盆踊りを行ったり紅葉見学、ドライブに行く等、気分転換を図っていた。敷地内の畑の手入れや収穫、園庭の散歩、外にテーブルを出して食べる食事等、少しでも外気に触れて楽しめるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望に応じて対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった場合には、家族に相談の元対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔保持に努めており、また展示物を用いて季節感を味わって頂いている。	ホームの敷地に畑や足湯があり、利用者が野菜を育て収穫したり足湯に入り、リラクセスできている。毎月、季節感のある壁画作りに取り組み、季節の飾りつけにより、温かな雰囲気のある共用空間となっている。掃除、換気を小まめに行い、清潔な環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を把握し、共有空間の座席の配慮等を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思いや希望を尊重し、家族の写真を飾る等、居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者が長年大切に使用していた馴染みの家具や寝具、仏壇や家族の写真、身の回りの物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように注意して、利用者が安心して穏やかに生活出来るように配慮している。室内は清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできる事はして頂き、できない事は一緒にしたり、声掛けを行うよう努めている。		